

小学生バレーボール・フリーポジション制競技規則

競技の特性

本競技規則は、6人制バレーボール競技規則に準拠するが、次のような特性を持っている。
競技者は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に動いてプレーすることができる。
ボールをプレーする時は、ボールが身体の数箇所に連続して接触しても、それが一つの動作中に生じたものであれば許される。
サービスは、それぞれのセットの初めに、チームごとに決められた順序に従って打ち、サービス権が移行しても、位置のローテーションはしなくてもよい。

1 施設と用具

- コートは、16m×8mの広さをもつ長方形の平面で、アタック・ラインはセンター・ラインの中心線から2.7m後方に引かれる。サービス・ゾーンの幅は8mとする。
- ネットの高さは2.00mとする。
- ボールは、円周63.0±1.0cm、重量210±10gの規格のものを用いる。
また、内気圧は0.30～0.325kg/c㎡とする。

2 競技者のナンバー

- ユニフォームには、競技者番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。
- 競技者番号は、1～20番までとする。ただし、やむを得ない場合は1～99番まで認める。
- ナンバーは、胸部中央10cm以上、背部中央15cm以上、字幅2cm以上、
キャプテンマークは長さ8cm幅2cmを用いる。

3 チームのライン・アップ

- それぞれのセットの開始前に、監督はサービス順とスターティング・ライン・アップ・シートを提出しなければならない。
- サービス順は、競技者の位置に関係無く決めることができるが、そのセットを通して変更することはできない。
- 交代競技者のサービス順は、被交代競技者の順位とする。

4 試合の進行

- 試合は、サービス権を得たチームの最初のサーバーによって開始される。
- サーバーによってボールが打たれた瞬間には、サーバーを除く両チームの競技者は、それぞれのコート内にいなければならない。
- サイド・アウトになった場合は、相手チームのサービス順の最初の競技者がサービスを行う。
その後は、両チームがサービスを順に従い、サイド・アウトごとに交互にサービスを打ち合って試合を進める。
- サービス順の誤りは反則となり、その間違いは直ちに訂正される。
- 監督は、ラリー中、ベンチに座っていなければならない。

5 セットおよび試合の勝者

1. 1つのセットは、最小限2点差をつけて21点を先取したチームが勝者となる。
ただし、3セット目は15点とする。
20対20の同点になった場合、競技は2点リードに達するまで続行される（20対22・23対21）。
2. 試合は、2セットを取った方のチームがその試合の勝者となる。
3. 最終セットで、リードしているチームが8点に達したときは直ちにコートを交替する。
4. リーグ戦において、1位が複数チームの場合、下記の順の条件で比べ、最も高いチームをブロック代表とする。
 - (1) 勝数
 - (2) セット数（総得セット数÷総失セット数）
 - (3) 得点率（総得点数÷総失点数）
 - (4) 直接対戦した場合はその勝敗で決定する